

Various encounters and discoveries

広島大学病院 横町 和志

私は、第6期生としてスタンフォード研修に参加したので報告する。スタンフォード大学は世界でもトップレベルの研究を行っており、3Dラボなど日本ではまだあまり馴染みのないものもいち早く取り入れている大学である。私は、今回の研修で米国における日常診療の状況や研究に対する取り組み方などを学び・感じることで自分自身に刺激を与えたいと思い参加した。

スタンフォード大学病院の見学で実際に診療されている技師さんとお話しする機会があり、米国は日本と比べ検査数があまり多くないことや勤務時間が完全シフト性になっていること、そしてCT・MRIに携わるためには技師の資格に付け加えて専用の資格がいるということを教えていただいた。このことは、CT・MRIに自ら専属制を持って検査を行おうと考えて技師になるので技師個人の責任感や検査に対する意識の高さを感じた。さらに、シフト性にすることで研究・学習時間を作りやすく自分の時間を多く持つておられる印象であった。

リサーチセンターでは、1つの研究チームに多職種の方（医師・物理学博士・放射線技師・工学博士など）がおられ、多方面からの見識で1つのテーマに向けて研究を行っていた。これは、各々の専門分野を最大限に生かしより良いものを生み出す環境が整っていることを意味する。その中で、放射線技師は医学と工学・物理学の橋渡しの役をしているとのことであった。非常にやりがいのある立場である。

今回、20名の日本中からの各分野の専門家が参加されていた。この研修は過去の参加者を見ても著名な方ばかりである。この研修に参加するまでは、無名の私が参加をしてもいいのか不安であった。しかし、研修を終えた今は無名の方こそ参加すべきだと思う。他の参加者の方と毎日ディスカッションすることができ、刺激をうけ知識だけでなく研究に対するモチベーションも与えてもらえる。私は、今回の仲間たちに本当に言葉では表現できないくらいの感謝をしている。

スタンフォード大学研修に参加したことで、この文章では書ききれないくらい多くのことを学んだ。その中で私自身の小ささや知識の浅さ物事をとらえる視野の狭さを再認識させられた。今後は、6期生として共に1週間を過ごした仲間たちに胸を張って会えるよう研究に励もうと思う。

最後に、今回多くの方の支援により無事研修を終えることができました。この場を借りて感謝いたします。ありがとうございました。



ルーカスセンター前で6期生の仲間たち（筆者:前列右から2人目）